# クリンフット

≪自動車用薬液噴射装置≫

## 大型・中型トラック用

型式：ＣＬ－□□００７

# 取 扱 説 明 書

はじめにお読みください

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU

東北海道いすゞ自動車株式会社

# 1. はじめに



## はじめに

この度、自動車用薬液噴射装置《クリンフット》をお買い上げいただき、ありがとうございます。
この取扱説明書には、薬液噴射装置の正しい取扱方法と注意事項について記載してあります。
この取扱説明書をご一読の上、つねに最良の状態で正しく安全にご使用下さい。

お読みになった後はいつでも取り出せるように保管し、わからないことがあったときにお読み下さい。

取扱説明書を紛失された場合は、お買い上げの販売店にご注文下さい。

尚、品質・性能向上のため、部品の変更を行う場合があります。
その際、本書の内容と一部異なる場合がありますのでご了承下さい。

## 保証について

キットの各部品の品質保証は東北海道いすゞ自動車株式会社が行います。
無償修理期間はキット購入後1年間とさせていただきます。
取り付け作業にかかわる部分の品質保証はその作業を実施したところで行ってください。

# 2. 目次

1. はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2. 目　次 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

3. 取り扱い上の注意 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

4. 《クリンフット》の特長 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

5. 各部の名称と働き ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

6. 使用していないときは ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

7. 使用前の準備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

8. 薬液の噴射 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

9. 一日の作業の後に ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

10. 日常のお手入れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

**注意事項について**

この取扱説明書では特に重要と考えられる取扱上の注意事項について次のように表示しています。

**⚠危険**　注意事項を守らないと、死亡または重傷を負うことになる操作手順や状況を示します。

**⚠警告**　注意事項を守らないと、死亡または重傷を負う危険性がある操作手順や状況を示します。

**⚠注意**　注意事項を守らないと、怪我を負う恐れのある操作手順や状況を示します。

**重要**　注意事項を守らないと、機械の損傷や故障の恐れがある操作手順や状況を示します。

**本装置の特徴**

本装置は、運転席に乗ったままスイッチを操作して車を少し動かすだけで、各タイヤに薬液を噴射することができるため、自動車のタイヤ消毒作業が軽減できます。
車両の圧縮空気を薬液の噴射に利用しているため、新たな動力が必要ありません。

**本装置の用途**

自動車のタイヤを消毒するための薬液を空気圧で噴射する装置。

**本装置の仕様**

| | | |
|---|---|---|
| タンク容量 | 約38リットル | |
| タンク長 | 54cm | |
| タンク直径 | 32cm | |
| タンク材質 | ステンレス | |
| タンク最大許容圧力 | 1MPa | |
| タンク重量 | 約20kg | |
| 噴射能力 | 6輪車用 | 毎分約10リットル噴射 |
| | 10輪車用 | 毎分約13リットル噴射 |

**使用薬液**　消毒用薬剤

**重要**

塩素系の薬剤は本装置の腐食を早めるだけではなく、車体やタイヤにも悪影響を及ぼす恐れがありますので、できるだけ使用しないでください。

**重要**

**薬液が凍結してしまうような状況では本装置はご使用になれません。**
寒冷地でご使用のお客様は冬場の使用は避け、『寒冷地での使用の注意』(本書15ページ)に従い、凍結防止の対策を充分に行ってください。

取り付け方法や取り付け状態は車両ごとに異なります。そのことをご理解いただいた上でお客様の車両と本書を比較して確認してください。

## 1. 圧縮空気を車両から取り出す部分

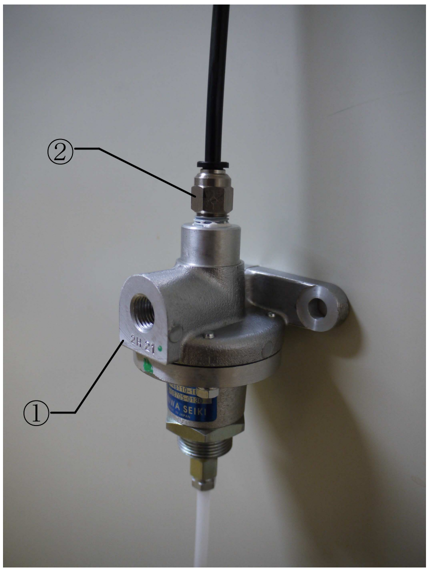

写真　1

① プロテクションバルブ
自動車のエア圧が設定圧力より高いときだけバルブが開き、薬液タンクに圧縮空気を送ります。
設定圧力以下になったとき自動車の機能低下を防止するため、薬液タンクへの圧縮空気の送りを止めます。

② ストップ弁付ワンタッチ継手
チューブを抜くと、圧縮空気の流出がとまります。 チューブが挿さっている時だけ、圧縮空気が流れます。

## 2. 薬液タンク周辺

① 薬液タンク
耐腐食性のあるステンレス製です。
容量は約38リットルです。

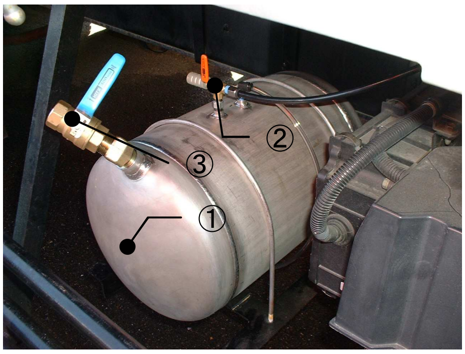

写真　2

② 3方バルブ
本装置の使用中は薬液タンクに圧縮空気を送り込みます。
（10ページ図6）
また、薬液タンクから圧縮空気を排出するときに使います。（8ページ図1）

③ 薬液注入口
ここから薬液を薬液タンクに入れます。（9ページ図5）
薬液はタンクに1割程度の空間を残すように入れてください。

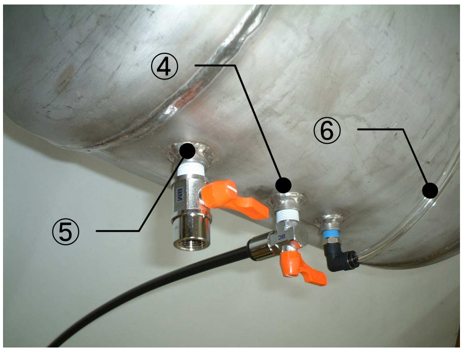

写真　3

④ 薬液送出元栓バルブ
本装置の使用中は開きます。薬液タンクから薬液を送り出す元栓です。
（10ページ図7）

⑤ ドレンバルブ
薬液タンク内に残った液体を抜くときに開きます。（13ページ図10）

⑥ 薬液タンク液面ゲージ
薬液タンク内の内容量を確認できます。

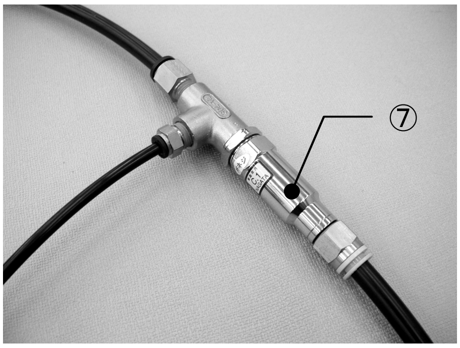

写真　4

⑦ ストレーナ
噴射ノズルの目詰まり防止用のフィルターです。定期的に分解清掃してください。（14ページ図11）

**3. 電磁バルブ**

噴射を制御するバルブです。
電気製品なので洗車するときに強く水をかけないでください。

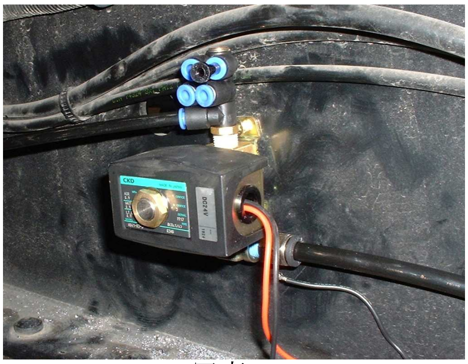

写真　5

写真　6

**4. 噴射ノズル**

薬液噴射専用の固定ノズルです。
タイヤ1本毎に1個づつ配置しています。万一詰まったときは分解清掃してください。
(14ページ図12)

**5. 足元ノズル**

足回り(靴など)を消毒する噴射ノズルです。

写真　7

## 装置を使用していないときは薬液タンクの圧力を抜いてください

3方バルブのレバーを起こして薬液タンク内の圧縮空気を抜いてください。（図1）

**注　意**

圧縮空気が完全に抜けて圧力が無くなるまでしばらく時間がかかります。
**完全に抜けるまで待ってください。**

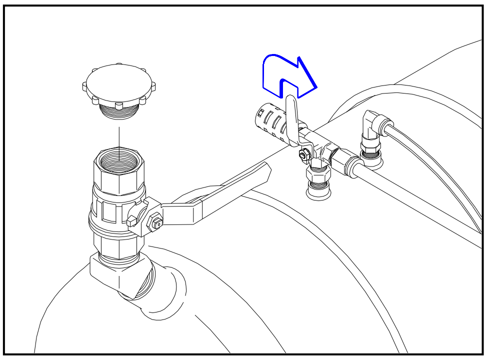

図1

ゴミがたまらないようにキャップをしてください。（図2）

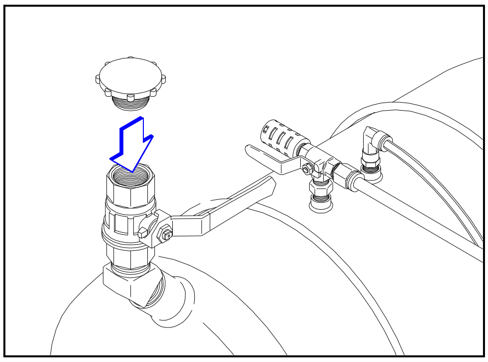

図2

足元ノズル用バルブは閉じてください。（図3）

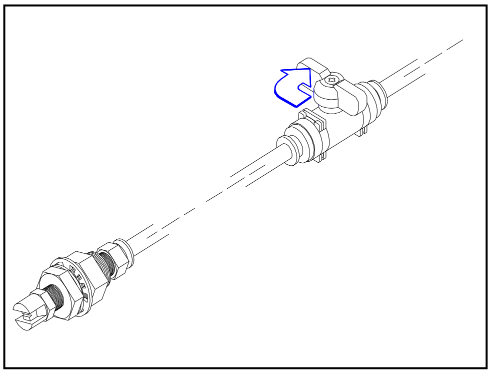

図3

## 1. 薬液を注入する

① 薬液注入作業の前に、**3方バルブのレバーが起きていて**、タンク内に圧力が残っていないことを確認してください。
（8ページの図1参照）

② ドレンバルブが閉じていることを確認してください。（図4）

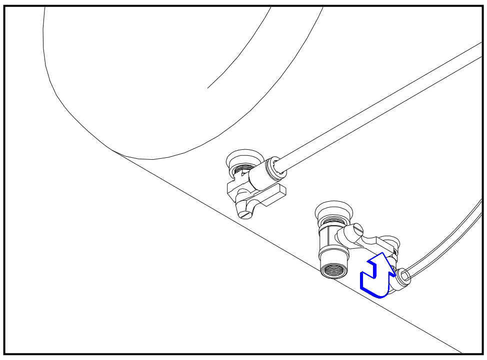

図4

③ 薬液注入口を開き、薬剤の取扱い指示に従って作った薬液を薬液タンクに注入します。（図5）
薬液の量はタンクに1割程度の空間が残る程度にしてください。

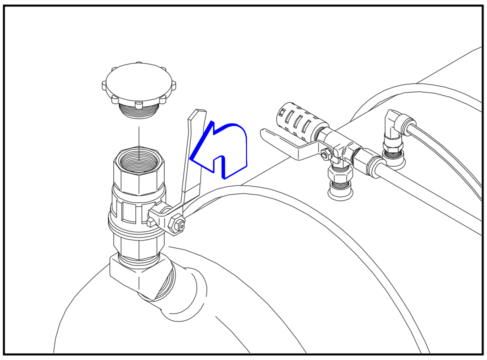

図5

**⚠注　意**
**薬液タンクが液体で満たされたとき、薬液注入口及び3方バルブから勢いよく吹き出すことがあります。**

④ 薬液注入口を閉じます。

**⚠警　告**
**薬液の濃度は薬品で定められている濃度を厳守してください。**
必要以上に高濃度の薬品は、薬液タンクやその他の装置の腐食を早めるだけでなく、人体や周囲の環境に対して悪影響を及ぼします。

**粉末の薬剤を使う場合**

粉末の薬剤を水に溶かして使う場合、溶け残りがストレーナや噴射ノズルの目詰まりの原因になります。 別の容器で薬剤を溶かしてから薬液タンクに入れるようにしてください。

## 2．圧縮空気を薬液タンクに送り込む

3方バルブのレバーを倒し、圧縮空気を薬液タンクに入れます。（図6）

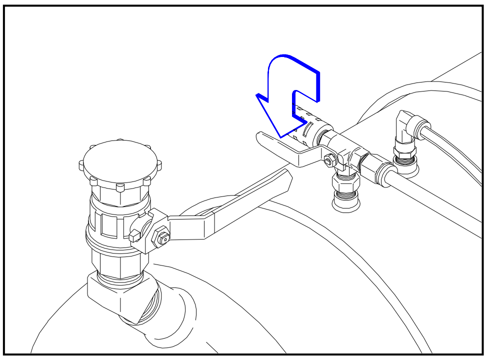

図6

車両のエア圧力が低いときはプロテクションバルブが閉じていて圧縮空気が入ってきませんが、エンジンをかけてしばらくすると圧力が上がりプロテクションバルブが開いて圧縮空気が薬液タンクに入ってきます。

## 3．薬液元栓バルブが開いていることを確認してください （図7）

これで、運転席のスイッチを入れれば薬液が噴射されます。
噴射するときは周囲の安全に十分注意してください。

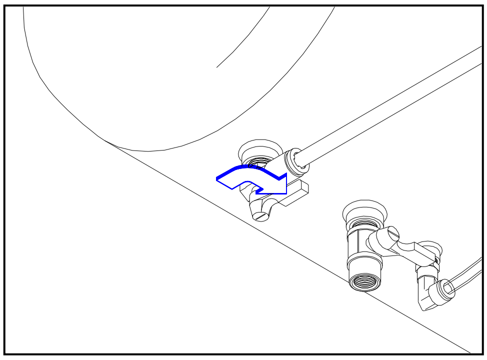

図7

## 1. タイヤに薬液を噴射する

① 自動車を停止します。

② 自動車の周囲の安全を十分に確認します。

③ 運転席内の《クリンフット》のスイッチを入れます。
サイドミラーなどで薬液が噴射されていることを確認してください。

④ 自動車を動かします。タイヤが一回転以上回るように動かしてください。
通常大型車でタイヤが一回転するのには3m以上必要になります。

⑤ 自動車を停止します。

⑥ 運転席内の《クリンフット》のスイッチを切ります。

**⚠危　険**

**一般走行中は危険ですので絶対に使わないで下さい。**

薬液は勢いよく噴射されます。周囲に人や車のいないことをよく確かめてからご使用ください。

安全確認は薬液を噴射しながらタイヤ一回転分以上自動車を動かすことを考えて十分に行ってください。

## 2. 足元ノズルで薬液を噴射する

① 足元ノズル用バルブを開くと薬液が噴射します。(図8)

② 足回りの消毒が終わりましたら、バルブを閉じます。

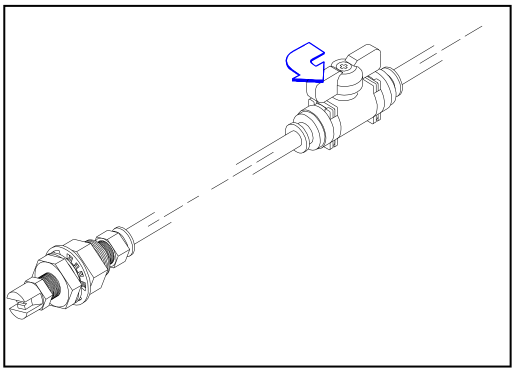

図8

万が一薬液が、誤って目や口や鼻に入ったり皮膚に触れてしまった場合は、ご使用の薬品の指示に従い速やかに洗い流したり医者に診てもらったりしてください。

## 薬液タンクに残っている薬液を全て抜いてください

薬液タンクに薬液を残したままにするとステンレス製タンクでも腐食が早まります。 長く安全にご使用いただくためにも作業のあとは薬液を抜いてください。

① 3方バルブのレバーを起こして薬液タンク内の圧縮空気を抜いてください。（図９）

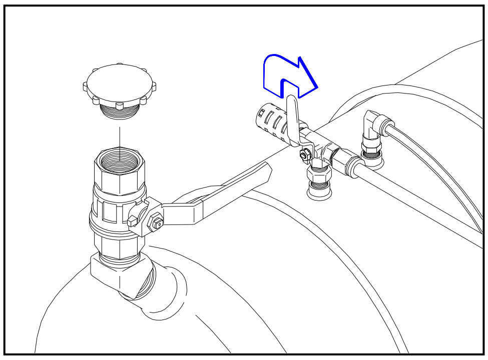
図9

**注　意**

圧縮空気が完全に抜けて圧力が無くなるまでしばらく時間がかかります。
**完全に抜けてから次の作業に進んでください。**

**警　告**

**薬液タンク内に圧力が残っている状態で、薬液注入口を開けないで下さい。**
圧縮空気や薬液が激しく吹き出し大変危険です。

② ドレンバルブを開けて薬液タンク内の液を抜いてください。（図１０）

薬液の廃棄は薬剤の取扱い指示に従っておこなってください。

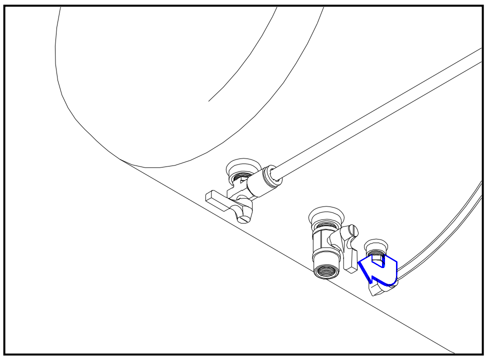
図10

## 1．薬液ストレーナの掃除は定期的に行ってください（図11）

①薬液タンクの圧力を抜きます。（8ページ　図1参照）

②ストレーナの入り側の継手を2面幅10mmのスパナで押しながらチューブを抜きます。

③ストレーナ本体のねじをゆるめて分解します。

④メッシュの部分を水洗いし、汚れや目詰まりを取り除きます。

⑤ 洩れのない程度に締めてください。
強く締めすぎないように注意して下さい。

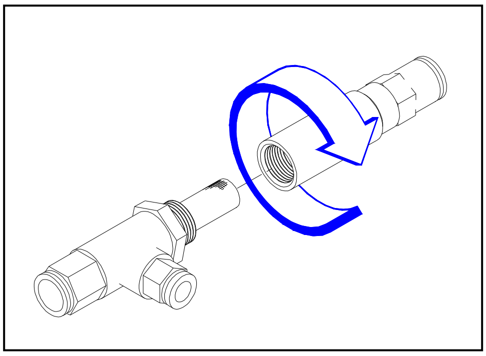

図11

目詰まりをおこしたまま使用を続けると充分な薬液の噴射が行えないばかりではなく、故障の原因にもなります。

## 2．噴射ノズルの掃除（図12）

ノズルがつまったときは先端部分をゆるめて分解して掃除してください。

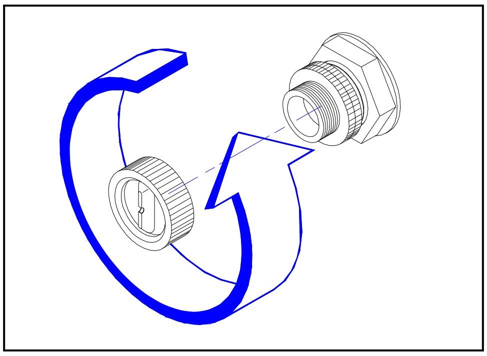

図12

## 3．噴射ノズルの調整

ノズルを回し、タイヤのトレッド幅から薬液があまり飛び出さないように調整してください

## 3. 寒冷地での使用の注意

**重 要**

**凍結の恐れがある場合には、本装置は使用できません。**
下記の説明に従い、凍結防止の対策を充分に行ってください。

凍結のおそれのある場合使用をとりやめてください。
カラの状態の薬液タンクに不凍液を入れて噴射作業を行っていただき(足元ノズルも)、装置全体に不凍液を通して下さい。

## 4. 長期間使用しないとき

長期間使用しないときは、装置内の薬をできるだけ洗い流してください。
タンクに真水を満たしてから、全部を噴射して出す作業(足元ノズルも)を2、3度行えば良いでしょう。
その後、装置全体をカラの状態にして下さい。

東北海道いすゞ自動車株式会社　環境事業部
080-0010　帯広市大通南7丁目8番地
TEL（0155）24-1219　FAX（0155）24-1233

最終改訂：2011年12月